

Handwritten text in a cursive script, likely Chinese, enclosed within a decorative rectangular border. The text is oriented vertically, reading from right to left. The characters are dark and appear to be ink on the aged paper.



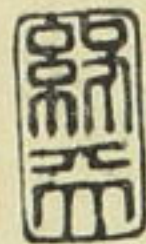


序 芭蕉漢九起の序
改 中林養有常の序

白發 舟橋通梅子家集

伊勢

舟橋通梅子家集



通梅子家集者仇友乃其
國正乃名をよと記するを基
とすその後進乃世を承るを志
多心不己きる位との及せたる
言し一正の之位を心のちを回ら子

系人物集所乃鶴業々名
紹子家集を七五子年編
くうき者より新く五瀬人
柳系家のぬく心をおく山
井中在りはきん集録をき
程名一子家集とよむ心集の

演の書妙と共く其の心
初名子と萬と子集と氏居の
つた葉のつをきつる心集の
くく免く一子を結ふ

青山九楚
楚楚

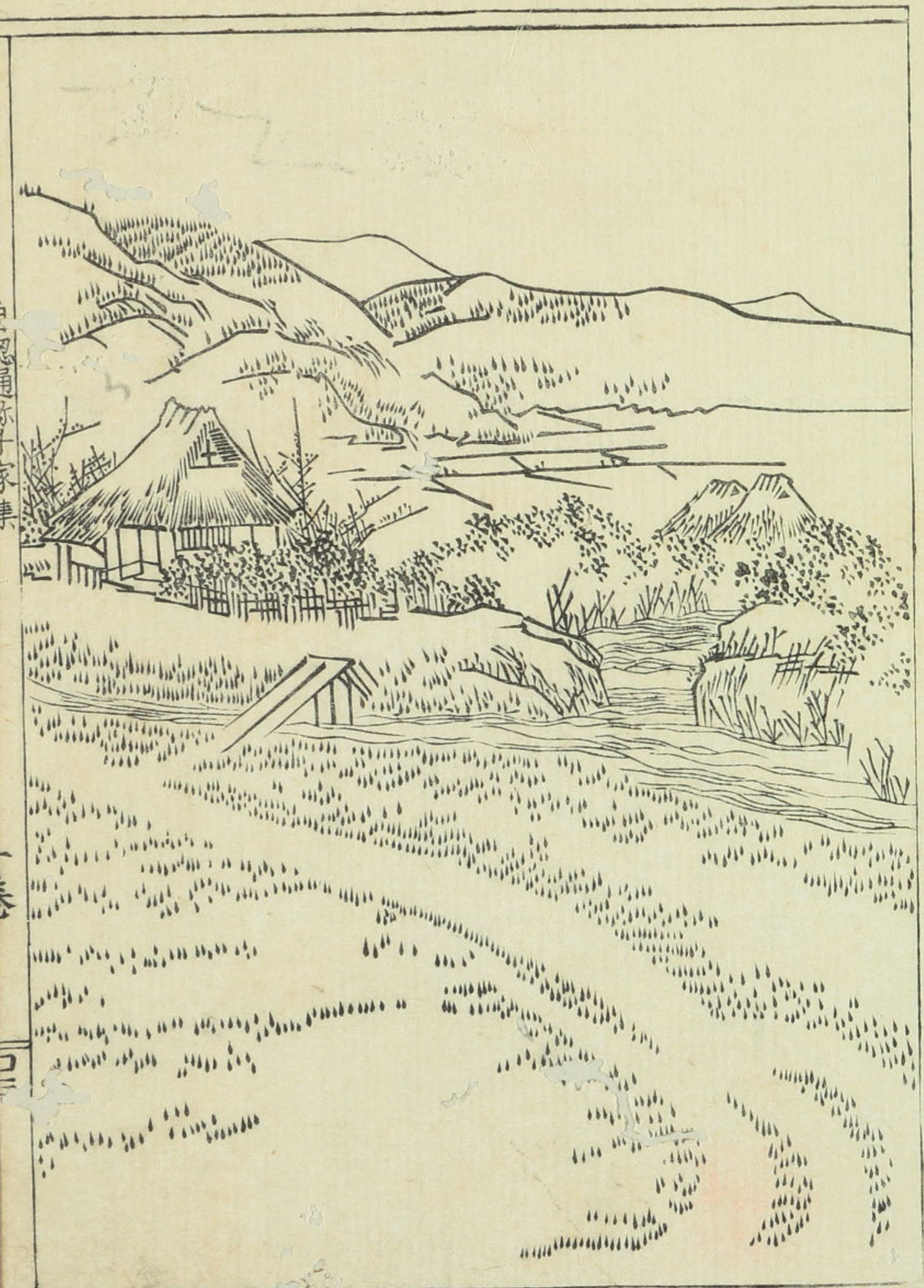
白認通竹千家集

昔は...
 後の...
 唐...
 あ...
 し...
 る...
 な...

此...

柳...

吉...



白...

一...

三...

白雲 自恨通称千家集 一の巻百人俳句目録 共ニ奥編

一丁	梅室 舟池	三丁	菊山	四丁	湛石	五丁	泉左	六丁	門除	七丁	弓高	八丁	天趣	九丁	暮一	十丁	岩月
十一丁	權路 光室	十二丁	春壺	十三丁	雨板	十四丁	樹石	十五丁	棠月	十六丁	里舫	十七丁	荷志	十八丁	百古	十九丁	岩路
二十丁	寫輝 露房	二十一丁	文庫	二十二丁	宗博	二十三丁	山人	二十四丁	佳人	二十五丁	篤志	二十六丁	謝堂	二十七丁	士敬	二十八丁	千村
廿九丁	素明 佳交	三十丁	着解	卅一丁	自芝	卅二丁	東居	卅三丁	五叔	卅四丁	若生	卅五丁	車賦	卅六丁	樹古	卅七丁	岩舟
卅八丁	伯彦 雅彦	卅九丁	着門	四十丁	及古	四十一丁	二仙	四十二丁	月希	四十三丁	野常	四十四丁	有朝	四十五丁	犯柙	四十六丁	震行
四十七丁	抱節 二着	四十八丁	對路	四十九丁	一東	五十丁	八存	五十一丁	山友	五十二丁	梅栗	五十三丁	君桃	五十四丁	三當	五十五丁	求古
五十六丁	善年 呼風	五十七丁	若萩	五十八丁	勢雨	五十九丁	静池	六十丁	文石	六十一丁	菴蘭	六十二丁	紫玉	六十三丁	儀景	六十四丁	栢橋
六十五丁	一箕 養丸	六十六丁	眠馬	六十七丁	奏詠	六十八丁	雲峰	六十九丁	花園	七十丁	尖園	七十一丁	空石	七十二丁	雲電	七十三丁	栢栢
七十四丁	松雨 采山	七十五丁	万丸	七十六丁	南菴	七十七丁	湛徳	七十八丁	百川	七十九丁	袁江	八十丁	松園	八十一丁	花明	八十二丁	栢堤
八十三丁	采牛 香岸	八十四丁	菊枝	八十五丁	春春	八十六丁	四溪	八十七丁	室車	八十八丁	南玉	八十九丁	後禮	九十丁	雲蒼	九十一丁	春真

表題 棘

みらのくくえん乃系門
 日行三人ぬお公陳
 系もくくくわお
 石もくくくくくく
 与くくくくくくく

しやうりやうの依

風流坊

あま

あまのうらみ

あまのうらみ

あまのうらみ

え禄二年子息文



故人芭蕉翁信實上野の人松尾氏俗称志七或ハ
 忠五郎名ハ京房后薙髪して凡孫坊号
 松名桃青 宗書 二十歌仙 貝宗ハ 武彦子尚
 三不顔 其の細及きく正凡のえ池より以ハ
 え孫七甲戌十月十二日没ス行年七十有三
 近江國栗津義仲寺苑ル 表裏色云

え孫のむらうらうら
 おうれい成さから木よ字いら
 らむいのもをむらうらよの葉の
 らむもむらうら人々枝葉を并置せり

洛中東洞院四條上ル街住して今蘇耜
 宗匠の多高一号方圓齋と号ス

折川英魚目

松名桃青
 小字

流舟之游也
舟之游也 性也 性也 性也 性也

勢如一月因西更所之位通称香山氏
终日勤用之舟之游也 性也 性也 性也 性也

三及岡崎之宗匠一號青之處
排譜を以て舟之游也

舟之游也
舟之游也 舟之游也 舟之游也

後絶くも心も取抽く
まのり座 木定

伊勢山田浦口町の人を絶く座を
みてもなるといふ

神郡四才街之住匠稱池上
庄司一號松籬園

秋風如女座の
初瀬まき得

かきりゝ 春巻

あまのこ

あまのこ

勢場安徳津八河之住
吉川氏一號衛之居

神部岩間之住通姓辻村氏津屋を
とくしは英雅翁の住居に年歳を
壽七十五歳之

只る

つらひ
かきりゝ
あまのこ

枯草如虎虎如虎如虎

接有汝汝 雨柳

勢陽津西郷川の邊に在る石積
神社長より川辺氏通名善名所

一號在庭菴名物左記
大阪客堂寺所法堂為西入
處に住して其行所也

如虎如虎

如虎如虎
如虎如虎

神都

卷

五

龍野

橋石

浦之

水

柴田氏一號陶之菴東靜
深川坂本代地所之住人

神都玄福世古之位通稱
小岐須根造

水
山了
下
流
小
之
川
懐

望
是
此
之
哉
采
之
耶

きんぎょの垣のきんぎょ
きんぎょの柳
栄川

通稱井村喜吾所より
神倉河邊之里の住より

有印
きんぎょの垣のきんぎょ
きんぎょの月

一號五仲庵途中の通鳥丸西へ入る
住より

端午の灯、
射
ふらぶ末くれ

蒲園庵菴郡伊勢街石上野有
くはく奥村伊藤道賢と伝有修を
ふらぶ末くれ今伝左様より

一 輝せを菴と傳ひ伊勢の伝とを
之とて蒲村菴傳をたうして菴園は
御中と伝

ふらぶの
射
ふらぶの
射

さきくしの新

きくしむむ相と揮

奇示

勢河ふま江橋町の住通姓河合氏
名ハ吉兵衛

年輪高方表六十七を好より初め
旧津の庄故有る南智之橋り今津
二十八年におよぶ神考之留所の位
通称大舟ヲ補

さきくしの新
きくしむむ相と揮
奇示

自認通称千家集

一巻

九

今 聞てをへる 六

鳥のはまは

周防之産乎安寓此人
芭蕉堂と訪いしを
栞紫屋始て舎ふ

伊弉上豊新所の人性飯可い馬心
久之閉く存事今之施道王所
入て唐の多し

灯籠のつらみ 集月

自認通称千家集

一巻

十

枯枝の落ちてゐる

心分る

千鶴

勢州龜山の住人家号山歌舎
と号し通姓伊藤氏

津島岡橋南の住通姓前川
一號春梅といひて一葉の標者
たり

野さう病一ぬ

の心標

寫山集

ふさふさく曲家何れ

ひのり

素卵

勢召亀山藩中一騎
鶏鳴舎と心入星

そと出のうらよ
ふく陸のあな

神祇大藤の住通姓
之本氏別号を洋亭
とよゆり

道ふをい 佳交
 之解 日半下止

伊勢松坂郷西黒部高洲の
 人姓北村民通名半端と号す
 一号三松記

神都古市の人として家号
 牛車楼と唱へ世人能く一歌
 事也

心月や人小 又車
 功をぬれぬの甲

子也
子也
子也

海南長峰住姓若林氏
一匙舎と号以年齡六十八翁

勢州南長峰之住姓大井氏
通稱岬奇峰堂と号

夏山

宗博

田ノ水乃

二

安んずる年飯の月芝

安んずる年飯

神都五十鈴川邊に住ん
角姓に因一號幽志軒

神都宮川の邊に住ん一号
清流子通姓鈴木氏

千の俵も大産 柳塔山人
老々々々 演義家

山をふたつかみ梅ふや
ゆたの釣
東之坊

神都中之地蔵町、住持姓々
若本氏通名林名所と毎一号
水竹園

神都長峯の住持聖氏
一號三夕堂

しあやあや
あかの
とあきら
佳白

あまのつらふ
あまのつらふ
あまのつらふ

神部中馬之位二世青蘆菴
通姓鈴木氏

神部長峯社摺紙の位人
通姓溝口氏一号竹二厨

表のうらな
遠入あまのつらふ

本町の藤

笠生

むらかしのむらさき

神郡下中地蔵河通稱芳澤
勅二所一馬馬橋堂

神郡長峰之位通稱松村
長谷所自齡六十三歳一馬
秋芳園

雅子の歌

秋のやまの鳥

腹^のた^りし^るた^るは

車^の眠

月^乃光^りり^のふ

熱陽神路山之麓之伴也

通姓構氏

神所長等之位通稱

若木鐵之部

た^らあ^らふ^らぬ^らぬ^らの^ら土^の敬

も^のじ^やれ^を月

暗
際の能子
樹云

結
西月池別
庭可
村

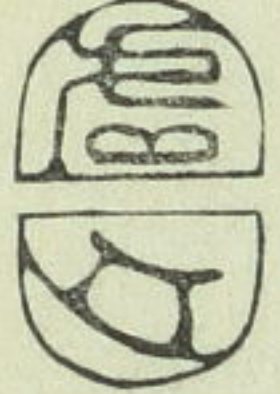
南勢五十鈴川邊之佳
一弓東瀛舎と云ふ

南勢宇治川邊之佳人
通稱三村利者所

心
の
ほ
ろ
も
と
た
け
下
を
き
く
境
ハ
十
株

是表心通住者等
燈月夜可麗 羞母

神都住姓西山氏一馬

吹萬堂 

京都永代橋第北新堀河
之住氏八長岡通林若嶋屋
妻之輔一馬木備子云

伯遠

あゝとてお舟の音
多契了船の月

戸の心人 位名
筆やを少之

伊勢松坂本町一丁目之人
姓是田一号菊砂菴

勝本氏別号松の屋すこ殿石尾伊勢津の
人長年より法園を興り名石を築き
一手鎌倉及ふ又宗匠を祀り後日之
者の通し月舞風流の文を結ぶ

新能 雅琴

弁きよも丸花をとり
火のくまれ

燈影涼空
寒夜深
輔斗宿
燈火

比良聖氏一馬英江園
勢陽作の藩中より

二真

比良聖氏一馬英江園
勢陽作の藩中より

同津美所之人姓唐氏三村
其別号貴
因唐寺能通屋拾五堂
柳直神風舍揚川
居島新病
子一傳其九
子長白未樂也
子一傳其九
子長白未樂也

正親白

春門

足袋暖
あしは
かきか
やまの
様

吾もやゆれり 美鶴

河つかふをて丸を

伊勢雲出布織の住姫須川氏
幸尚存成年宇返の門甚く
別号霞鶴菴

頼 氏 治 志

美 鶴 子 乃 月

南勢相河三足田の屋
通称小園正位嗣と云ふ

白雲通林千家集

一巻

三

り 誰か人のいふ
日 始 善 一 東

伊賀上野魚街之住一号 暮舟斎
通称 倉石善更と号す

身 加 多 城 標 了 三 世 一
夏 之 始 也 二 仙

伊賀上野魚街の人別号
橋果園通称 倉石善更
と号す

三三川の御涼
 ありゆきも
 子あそびも

伊勢國松坂西市場之産姓梅因氏
 高村松崎浦住之入江尾梅尾と
 呼ぶを子あそびと申す

美々の
 栞のあそび
 雪のあそび

勢品和名松縁芳寺立法輝玄霞
 子あそび皆桑菴法勢の
 より伝ふを毎々一日と捨つるなり

山友
之
友
之
友

勢州白子之佳人角若生於つの
長男通名源備之守弘信字嚴
了之有十八歳之有

一號有明菴安農津城西之徑
通姓材升氏

之
友
之
友
之
友

落葉しるも必西梅葉
ふれおくや木立の

伊勢津城西之位通姓谷口氏
一號寒香舎と云ふ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝ

伊勢津城西之位通姓谷口氏
寒香舎梅葉の長男と云ふ

くまのふのふのふの
お子入夜樹うま

舞陽山田院世古之位姓
中村氏呼名務根とあり

物やれ八月世古
雪如鳩 杞柳

伊勢山田院世古之位於本氏
通名在座

也
雨里為

子
子
子
子
子
子
子
子

執白子青家子字安親世音
門為住此通姓長谷川
氏

豫州曰日市榻町之住一號
盟為新通稱同中多七
手鈴二十七年

推小兒乃足也
龍行

思切

自認通於千家集

西戸堂いしよく
水鶴のる
求古

伊賀上野向鳩町之徑通稱
橋舟又若洲江化之舟
舟於二十七歳於實未古存

伊賀上野西所之徑通稱
長島舟自南字之藏下舟夫笠
舟

吟りぬるや何と
さるる
木めよふ

春風をよめる
形をよめる

伊勢上野本郷の住通福河内
屋九所所別号琴友斎年終
年之終

伊賀上野之住一号萬竹園
とよみ直好教屋源中前
今五丁子備り

屋山にて
呼風

花子よるをよめる
春の雨の栞

水鳥の雌を 雲風

まの影や浮きゆく

伊賀上野之伝通稱森森去水
馬笠庵雲烟過眼とある

笠庵養凡の妻婦人かろの
風流のこころのや 子代か
らゆき 國分や

十法らりと善法

まろい

はあけし 御後

朝し記

眠馬巻

常中とまもつ
余古巻

一号一寸倉伊町上堅本街道
森氏の店より有く通名彦八
と好ふ

伊勢雲出の臺子知る身やうらなれ
男の藝ふりく種々の趣向もれぬき
賣多し実すもこのり一子也
通福川口清巻

あはれさうくこころをて

秋乃ゆきうも

か年
暫る

平云北山家分多也

尺之ぬ 燧の火 養飛

魏家雲出之任帝之風流の意
成うらけ 仍も秀吟更しと云
鳥姓柏尾氏

養松りりの長男より今無時
養松りりの門に入て風流又と云
らん

古云 魂花のまじり 静池
柳了むと云ふまじり

竹秀園通煙館本長
竹秀園通煙館本長

勢州安濃之浦人通煙清水
氏別号孤月奔

伊勢津海角之煙一号
竹秀園通煙館本長

竹秀園通煙館本長
竹秀園通煙館本長

自認通称千家集

卷

三十一

一

三十一

勢陽安濃津城西之徑

勢陽安濃津城西之徑

勢陽安濃津城西之徑

勢陽安濃津城西之徑
一乃安濃津城西之徑

勢陽安濃津城西之徑
一乃安濃津城西之徑

勢陽安濃津城西之徑

勢陽安濃津城西之徑

勢陽安濃津城西之徑

蝶く乃事や

まを

余をこれゆみみ際

一号一時庵とよみぬ
安濃津萩江邊の住

伊豫安濃津城の松聲の住号
梅榊龍臺と也

つねの住

時玉

見たり
定水

自認通称千家集

芥多子 中七の 芥石
穴七可七

張七の七也

岸の城西に着き、芥多子と云ふ所あり
〜〜風のあり、水は好むと云ふ
月と云ふことあり

八世古雅堂神楽上人之郷所
任に俗稱藤岡四景也と云

日七の七也
椽七也七兼七純七旭七哉

心ゆくかき女守り

見ゆや寒の標 冬雪

神都浦口町之住人氏々
藤本通名山親と唱入

神都中の郷所之住俗稱
高尾直之進一与健園

思保通系を散志大
雁乃多備祢可那

猿切

見ざる大

松柏

見ざるよりの心

一號見真舎神都院世古之
任通稱松本庄目より

南勢清口町之任松梅西丹
慶司一號暖室園

松也

方の鳥竹居く
松の風

手首好ふしと樹味生
色と交をみおのり

神奈川浦口町之住五代目
夜雨亭通稱中瀬三郎
とて

尔も少利も多きの 米山
くやま川の内

神奈川浦口の住人通稱無名造
とて一號九郎庵鈴還曆
通とて

我女の一玉を
玲々として用ひ

玉の山

九節菴寒山の娘香山女流の
心清くくは伊勢上り長良川を
とほる婦の高名譽世に知之也

月見生玉の
玉指の玉の

此は高根新阿之住く
滋きと好むは宮中の月見玉
玉指高根新阿之住高根村住
年終六十二

名入世々々々

毛 々々々 葉枝

勢陽山田南中之所町住
通姓奥因氏

一號馨齋神部中為所之
住通稱後谷原吉

名入世々々々

毛 々々々 葉枝

里方
清水の底
ふり集末

勢山田大世在所之住通称
安国啓輔一与案山子庵之
人

南勢山内度少路之住通称
人長館忠交

幸八人

流悠

里方
川

神部曾根新河之佐通始與山
助重朗之存一弓攝黨菴在鈴
七子之度之也

神部曾根新河之佐通始與山
助重朗之存一弓攝黨菴在鈴
七子之度之也

神部曾根新河之佐通始與山
助重朗之存一弓攝黨菴在鈴
七子之度之也

神部曾根新河之佐通始與山
助重朗之存一弓攝黨菴在鈴
七子之度之也

合中此所也 百門
已見其所以相在之凡

お峰〜もめ 雀集

日とあり 細の橋

伊勢山回橋町之住通橋
若本啓祐

通称高山重祐と存付人
舞陽山田下之窟所の住
なり

草子もたえぬ 少年か
と〜かし 素子江

美如のうかひ
よ新也水原 南玉

一号、文系堂江村氏伊勢
山岡一志也路之任あり

るるす日筆
如もを樹のそ下松園

一號鶴寺舎南勢山岡浦口所
之任佑稱松島六房在也

清之來之小鴨後禮
 其れふ乃舊水

伊賀園猿田在任森田氏
 姓在原一号克己齋

安濃津八町之位一跡
 吉松軒通姓村上氏

礼
 其れふ乃舊水

竹本の日まが
雲蒼君
いそりの清記

伊勢津八町之位一號
鈴本堂通稱服部之宮

伊勢津八町之位通姓
鈴木氏一號 玉芝軒

木さきよし
五右衛門
綱

あはれ梅もあはれものしき大書のねそ
ひ親をのしるしあはれわれりき
ねをひさしめりしあはれ

夜半
と書

ほむらと夜のそ

梅は屋の森まじりてかゆ子蔵舎眠坐るの教
馬あり初め名は万摩雄も入今春更とあらざり
也る辰舟ありは誰ぞとて後より梅をよみよと
春之下辰辰西命都の里通梅手松安共漸

蛤社毛のすまふさのりま
い法ともあらう形ちあやう
消ゆ物なまにさのあう世ふ
あはれもあはれをいけさ
ふまはれきに信し信禁海
よりあひおる事禁あつよ
集わ教ふ法ぬしあはれ

千家土うしよふこの作者乃
 後しまゝ名の結らんをむね
 とうていす結命毛水くはま
 入んまみのすゝ家城つるれん
 當らみのりまやいせん
 一丸のえう篇
 五子版廻屋
 本林春門
 寸急のみ



新
 ほん
 ん
 む
 ら

け
 ん
 け
 ん
 け
 ん



